第 53 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	林健太ゼミ	チーム名	カメムシパンチ
タイトル	少子化×IT＝？		
テーマ群	e)産業・企業		
メンバー	岩城洋作、内田倫太郎、安信拓海、上野晟彦		
研究計画内容	【研究背景】 日本では少子化が社会問題として取り上げられて久しい。厚生労働省によると年々出生数が減少しており、令和 4 年度は過去最低の 770,747 人となっている。また結婚率も出生数の減少に比例する形で減少している。つまり結婚と出産には相関があると考えられる。 少子化は、私たち大学生にとっても身近な問題であり、これを緩和するには私たちの将来の行動がカギを握っている。男女の出会い→交際→結婚→出産という一般的な流れの中で、男女の出会いの減少が未婚に繋がり少子化の大きな要因となっていると考えられる（株式会社リクルートマーケティングパートナーズによる 2020 年のアンケート調査によると恋人がいない人の理由は、男女ともに「出会いがないから」が最も高くなっている）。 また、所得の問題も大きな要因であろう。永瀬伸子(2002)によると、そのアンケート調査において「正社員と非正社員を対象にした結婚と独身のどちらに利益を感じるか」を尋ねたところ、「非正社員の人ほど結婚に利益がない」という回答が多く得られた。利益がないと回答する理由として、「非正規雇用」という働き方がそうしているのではなく、「低所得」の効果が大きいことも明らかにしている。よって今回の我々の研究では、少子化の原因を出会いの減少と所得の問題に絞り、それらを IT によって解決できるのかを明らかにしたい。 【研究内容】 結婚や出産に直接関わりのある 10 代後半から 30 代前半を対象に、出会いに関するアンケート調査を行う。アンケートでは交際の有無や収入に関する質問を通じて、少子化問題の本質が「出会い」と「所得」にあることを確認する。出会いについてはマッチングアプリを、また、所得の増加方法として「TikTok」という動画配信サービスのライブ配信をそれぞれ活用するなど、IT の促進が結婚率の上昇に繋がるかどうかを示したい。 【参考文献】 永瀬伸子(2002 年)「若年層の雇用の非正規化と結婚行動」 厚生労働省（2022 年)「令和４年(2022)人口動態統計月報年計（概数）の概況(第 4 表)」 https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai22/dl/h3-4.pdf（2023 年 10 月 25 日閲覧） リクルート（2019 年)「恋愛・結婚調査 2019」 https://souken.zexy.net/data/ra/renaikan2019_release.pdf (2023 年 10 月 25 日閲覧)		